

平成26年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立新野小学校

<p style="text-align: center;">教育目標(めざす児童生徒像)</p> <p>自ら学び、心豊かな新野の子を育成する。</p> <p>に にここ (人や自分を大切にする子) い いきいき (めあてをもって学ぶ子 すすんで働く子) の のびのび (元気に運動する子) こ こつこつ (ねばり強い子)</p>	<p style="text-align: center;">今年度の指導の重点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 指導技術を高め、授業改善を行い、わかる授業・楽しい授業づくりを進める。 2 基礎基本の定着に向けて、くりかえし学習・補充学習・少人数指導等を取り入れ、個に応じた指導を充実させる。 3 一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導と必要な支援を行い、特別支援教育を充実させる。 4 児童の達成感を大切に、自己肯定感を育てる積極的な生徒指導を推進する。
<p>調査結果について(調査結果において明らかになったこと)</p>	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国(小)</p> <p>国語Aについては、県平均と比べると正答率がやや高い。 国語B、算数A、算数Bについては、県平均と比べると正答率は低い。 A問題よりB問題の県平均との差が大きいため、B問題の活用型の問題を苦手としている。 国語Aでは、漢字の読み書きの正答率が高い。(本校90.0%、岡山県85.2%) 国語Aの故事成語(五十歩百歩)の正答率が高い。(本校86.4%、岡山県48.4%) 国語Bでは、選択式の問題には答えられているが、記述式の問題には課題がある。 算数Aの「数と計算」「数量関係」の領域では、8割程度理解できているが、「量と測定」「図形」の領域に課題がある。 乗法と減法の混合算(100-20×4)の正答率が高い。(本校95.5%、岡山県87.8%) 割合を使って式をかく(80×1.2)の正答率が低い。(本校59.1%、岡山県70.0%) 算数Bでは、選択問題を選んだり、答えを求めることはできても、求め方を記述して説明することには課題がある。 かけ算のきまりを使って数字を選ぶ問題の選択肢問題(本校90.9%)、説明問題(本校13.6%、岡山県44.0%)</p> <p>県(中)</p> <p>国語、社会、数学、理科とも正答率は、県平均を下回っている。 それぞれの教科の漢字、計算、地形図の見方、植物の成長の問題の正答率は、県平均と同程度である。 社会の「日本の国土と人々のくらし」の正答率は、県平均よりやや高い。 国語の文法・語句に関する知識、算数の資料の分類・整理、表や棒グラフには特に課題がある。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>朝食、起床・就寝時刻など基本的な生活習慣がついている割合は高い。 「将来の夢や目標をもっている」「ものごとを最後までやりぬく」「人の役に立つ人間、人の気持ちが分かる人間になりたい」という肯定的な価値観を持っている割合が高い。 家庭での読書の時間を持つ、図書館をよく利用するという意識を持っている割合が高い。 家庭での学習時間(1時間以上)の割合が県平均に比べて少ない。 「宿題をあまりしない」割合が、県平均より高い。 家で学校の授業の予習や復習をしている割合が県平均に比べて少ない。 平日のテレビ・ゲームの時間が長い児童の割合が、県平均より高い。</p>
<p style="text-align: center;">成果と課題</p> <p>国語では、漢字などの基礎基本なこと、算数では、計算などの基礎基本のことは、比較的よく理解できている。 国語、算数ともに、記述式の問題に対して、無解答率が高かったり、条件を満たさない解答が多かったりする傾向があり、課題である。 国語、算数ともに、活用型の問題に対し、情報を整理して理解したり、実生活に結びつけて考えたりすることを苦手としている。 国語、算数ともに、その「教科が好き」「大切だと思う」と回答した割合が高く、学習に対して前向きな児童が多い。 学習に対して前向きに取り組もうとする意識はあるものの、実態としては、宿題をきちんとしない、予習・復習をあまりしないなど、家庭学習の時間が少ない、内容が不十分である傾向がある。 ノーマディア週間の取り組みもしたが、全体的にはまだまだ意識が低く、テレビ・ゲームの時間が長い傾向は改善されていない。</p>	<p style="text-align: center;">課題に対応した改善方法</p> <p>学習規律を高め、学習に主体的に取り組めるように、校内でのきまりを改めて共通理解し、全体で取り組んでいく。 (学習のきまりを明文化したカードを作り、掲示したり、指導に使っていく。) 「家庭学習の時間の充実」をめあてとして、中学校区の取り組みとタイアップさせながら、学校独自の取り組みを進め、強化していく。 家庭学習を充実させるために、校内で研修をし、自主学習を進めていく。 朝学習の充実をはかるため、時間の確保の仕方や内容を見直していく。複数態勢で指導にあたり、実効性をあげていく。 朝学習の内容については、系統的に身につけさせたい学力の共通理解、現状の分析による課題把握をしっかりとっていく。特に、漢字、計算などの振り返り学習を徹底させる。 授業改善をはかり、自分の考えを伝え合ったり、ノートに書いたりする活動を意図的に位置づけていく。また、授業の振り返りも大切にしていく。 つけたいいいるな力を見通して、授業作りの工夫をしていく。 国語・・・物語文、説明文などさまざまな文章を読み取る力、考えを表現したり、説明したりする力、聞き取る力、辞書の活用 算数・・・実生活の中で算数が活用される問題を解くことで、見通しを持って解決する力をつけたり、有用性を意識させたりする</p>
<p style="text-align: center;">取組の検証方法及び検証時期</p> <p>家庭学習の充実に向けて・・・「新野っ子ウィーク」(9月、1月)「勝北っ子ウィーク」(10月、12月、2月) 児童へのアンケートの実施(学期ごと) 4・5年生の学力たしかめテスト実施(11月) 全国や県の学力テストの過去問題に取り組む(A問題を中心に)</p>	<p style="text-align: center;">達成目標(数値目標)</p> <p>家庭学習が、学年のめあての時間確保できている児童の割合をあげる。(取り組みカードの提出を40%→80%へ) 「各教科が好き」「授業がわかる」と回答する児童の意識は高いので、よりその割合を高め、理解の実態に結びつこうとする。 過去問題に全員で取り組む。(4・5・6年)</p>